

主論文の要旨

Clinical impact of pathological sub-classification of colorectal mucinous adenocarcinoma (大腸粘液癌における病理学的亜分類の臨床的意義)

東京女子医科大学外科学(第二)教室
(主任：亀岡 信悟教授)

加治 早苗

東京女子医科大学雑誌 第 84 巻 臨時増刊号 E378 頁～388 頁 (平成 26 年 11 月 18 日発行) に掲載

【要 旨】

【目 的】大腸粘液癌は大腸癌のなかの組織型亜型であるが、予後予測因子としての臨床的な扱いは確立されていない。本研究では粘液癌における非充実型低分化腺癌、印環細胞癌に由来する成分（以下：PCC）を含むか否かに着目して、病理学的に亜分類を行い、この臨床的意義を明らかとすることを目的とした。【対象および方法】教室で経験した 1991 年 1 月～2005 年 12 月までの stage II III 根治手術症例のうち粘液癌（以下：MC）27 例と非粘液癌 831 例（以下：NMC）を対象とした。PCC を含む MC（以下：MCP）と PCC を含まない MC（以下：MCNP）に病理学的に亜分類を行った。粘液癌の亜分類別に臨床病理学的因子、全生存率（以下：OS）および無再発生存率（以下：RFS）について比較検討した。【結 果】MC の 5 年 OS および 5 年 RFS はそれぞれ 70.6%、63.8% で、NMC は 81.2%、82.1% であり予後に有意差を認めなかった。MC 27 例のうち MCP は 22 例（81.5%）、MCNP は 5 例（18.5%）であった。stage II での RFS は MCP が MCNP+NMC より有意に予後不良であった（5 年 RFS MCNP+NMC 87.3% MCP 57.1%、 $p=0.01$ ）。【結 論】粘液癌の亜分類により MCNP は予後良好であり、MCP は NMC および MCNP に比べて予後不良であることが判明した。さらに stage II において MCP は独立して有意な再発リスク因子であった。